



悪魔に魅いられた花

大きなカルデラの山の東西の麓にある2つの村は、ペンタウァでも有数の貴金属の産出地だった。この山には金や銀をはじめとした豊富な種類の貴金属の鉱脈が埋まっていたのだ。東西2つの村の人々は、それを大地の神の恵みと思い一生懸命に掘り出しては村人全員で分配し、幸せな日々を送っていた。

しかし、実は東の村の村長は、心の中では「なんとかしてこの富をひとり占めできないものか」と考えていたのだ。

そんなある日、東の村の村長は、西の村に「禁断の花、が咲く場所があるという噂を耳にした。調べてみると禁断の花とはケシの花のことだという。これを放っとく手はない、とばかりに、彼は西の村からケシの咲く地へ通じる洞窟を閉ざし、新たに東の村からの道を作り始めた。さらに魔法使いを雇って西の村に疫病を流行らせ、貴金属までも独占しようとしたのだ！

東の村の村長の計画は、万事順調に進んでいた。ただひとつ、不思議な疫病の原因を探りに、ソーサリアンが出てくるということを除いては。

主なモンスター



主なアイテム

▶ バット

疫病によって人が通わなくなつたのをいいことに、鉱道に棲みついた吸血コウモリ。エサが少ないためか、たまに侵入者を見つけるとどこまでも追ってくる

▶ カンテラ

真っ暗な地下の鉱道を照らす唯一の道具。闇に紛れて襲ってくる怪物の動きを察知するためには、絶対に必要なものだ。

▶ ストーン・ストローパー

触手に触れた者を石と化す毒を持つストーン・ストローパー。人間の無遠慮な採掘作業は、地下深くで眠っていたこの危険な怪物を、眠りから覚ましてしまったのだ。

▶ ガレブ・ドゥール

地下で暮すうちに足が退化した人面岩。動くことはできないが、離れた敵も口から吐く魔法の玉ではね飛ばすことができるため、剣だけで倒すのはかなり困難だ。

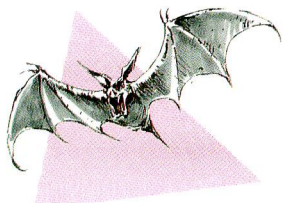
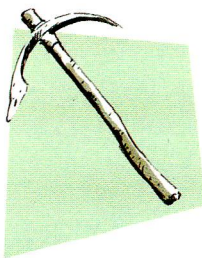
▶ 倉庫の鍵

岩を吹き飛ばすための爆薬を置いてある倉庫の鍵。この鍵さえあれば爆薬を使って、新たな道を開くことができるのだが。



▶ つるはし

使いこまれたつるはしはかつて疫病が流行る前、この村が鉱山として栄えていたことを物語る。だが、今はそれを持つ者はいない。





いけにえの神殿

この地に今も残る巨大な神殿の遺跡。ヘンタウァが誕生するずっと以前、ここに栄えた文明が、確かにあった。大理石で造られた巨大な柱、夜を昼に継いで行なわれたであろう儀式のための美しい祭壇、(その壇上の司祭を荘厳に照らし出すための二対の燭台……。)^{しよくたい}「この神殿の規模からすると、さぞ荘大なものだったのだろう…」。この地を訪れた旅人は、必ずといっていいほど、こんな感概にふけて一夜を明かす。

しかし、一見華かなその裏には、必ずいけにえにされる少女と、その家族の悲しみがあったのだ！ もちろん、古代の話だが……。

ところが、あるときこの遺跡に現われた女神官は、昔のようにいけにえを差し出さねば世界を破滅に導く、と村人を脅すではないか！ 初めは女神官を相手にしなかった村人だが、次第にその魔力に畏怖を感じ、いけにえを捧げることを決めてしまった。悲しみにくれるいけにえの少女の父は、ソーサリアンに娘の救出を頼んだのであった……。

主なモンスター



主なアイテム



▶女神官

自らがかけた魔法によって復活したという女神官。かなりの魔力の持ち主ではあるが、それでもソーサリアンたちは、いけにえにされた少女を救い出さねばならない。

▶シェイド

暗闇の剣士。闇の中での戦いは、彼らの最も得意とするところだ。しかも、明るい場所では影に潜み、侵入者に一撃を与えると、また影の中へ消えるという。



▶ケルペロス

3つの頭を持つ地獄の猛犬。頭が3つ、目が6つあるだけに視覚が広く、敏捷でもあるため、こいつの攻撃からのがれるのは困難だ。



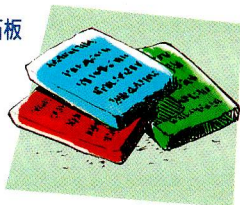
▶ショッカー

突然目の前に現われては、強烈な電撃を浴びせかける。その素速さと電撃の威力には怖れないものがある。若きソーサリアン達よ、どんな時も油断は禁物だ。



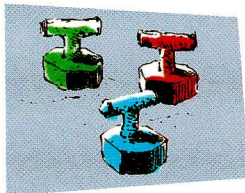
▶青い石板、赤い石板、緑の石板

古代文字が刻まれた、謎の石板。そこには遺跡の秘密が書かれているらしい。誰か、古代文字を解読できる者がいればいいのだが……。



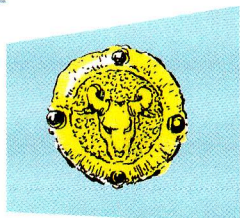
▶青いバルブ、赤いバルブ、緑のバルブ

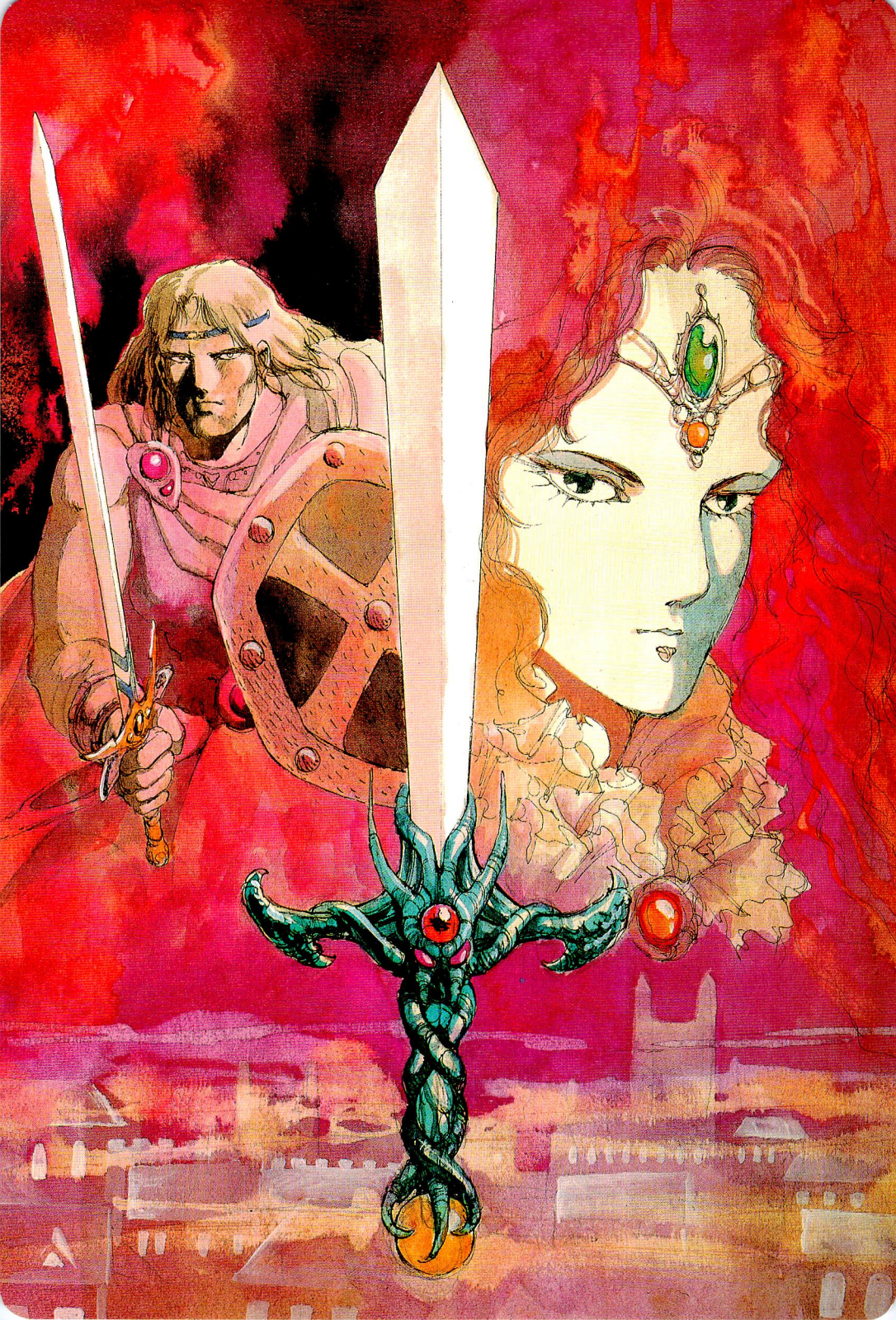
その昔、この遺跡が神殿と呼ばれていた頃、時の王が作らせた秘密の通路を開くために使う物らしいが、今となっては……。



▶神殿の紋章

遺跡に残っている、この神殿の紋章。ある場所で見ると、かざした者に道が開かれる、という言い伝えがあるという。





つるぎ アマゾンの剣

女だけの王国ヴァネルバ。この国では昔から、男王と女王の2人によって国を治めるという双君主制を採り続けてきた。片方の王が何かの理由で別れても、人心に不安を与えないためだ。現在の女王アネリーナも、この伝統に乗っかって、自分よりも強く誠実な男タルフを夫に迎え、男王としていた。2人の王の姿を見て、人々は「これなら王国は安泰だ。アネリーナ様も、よい方を王に迎え入れたものだ」と、ことあるごとに話していた。

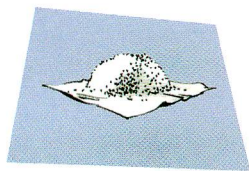
しかし、それほど信頼されているはずの男王に、今、疑惑の目が向けられている。事の起こりは、こうだ。

ある日、町の南端にある神殿——この国を作ったといわれる戦いの女神ヴァネルバが、魔物を封印したといわれる神殿——にある、封印の源といえる「アマゾンの剣」が、何者かに盗まれてしまったのだ。その結果、いずこともなく湧き出した魔物によって町は半分が占領されてしまった！ さらに間の悪いことに、剣がなくなったのと同じ日に、男王タルフの姿も見えなくなっていたのだ。

これでは人々が「男王が剣を盗んで、どこかへ逃げたのだ！」と思うのは当然のことだろう。だが、アネリーナはそんなことはないと信じている。とはいえ、女王という立場上、勝手に城を離れてタルフを捜し回るわけにはいかない。兵士たちは町にあふれる魔物と戦うだけで精一杯……。そうこう考えているうちにも高まっていく人々の、王に対する疑惑の声。そんな声を聞くに耐えられなくなったアネリーナは、ついにソーサリアンしょうすいを呼び、王を捜し出して疑惑を晴らすことを依頼したのだった。憔悴しきった顔で……。



主なアイテム



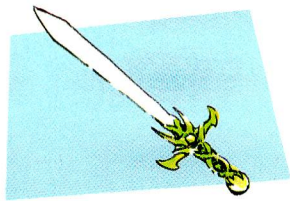
▶ 魔除けの粉

修行を積んだ魔法使いだけが作れるという魔法の粉。呪術によって見せられる悪夢を払いのける魔力が秘められている。



▶ ラム酒

サトウキビから作られる、このアルコール度の強い酒は、戦場で傷ついた兵士たちの心を癒すためになくってはならないものだ。



▶ アマゾンの剣

その者、女神ヴァネルバが魔を封印したと伝えられる伝説の剣。平和の守り神ともいえるこの剣を盗んだ者は誰なのだろうか？



ああ、ジョセフィーヌは今何処

ペンタウァの東に位置するケメケメ王国に、ひとりの美しい王女がいました。名前はマーベラ。兄弟のいないマーベラ王女は、ペットの犬、ジョセフィーヌを、まるで妹のようにかわいがっておりました。なにしろ、遊ぶときだけではなく、食事ももちろん、寝るときだって一緒、それどころかお風呂にも一緒に入るほどのかわいがり方だったのです。

ところが、ジョセフィーヌはお城の生活にちょっぴり飽きていたのでしょう。王女と共にちょっと散歩に出たときに、パッと駆け出してしまったのです！ しかも、ジョセフィーヌが駆け込んだところは、これまで誰も入ったことのない、城の地下のダンジョンではありませんか！ さあ大変です。城にいる兵士全員総出で、ダンジョンの地図を作りながらの探索が続きましたが、何日たってもジョセフィーヌは見つかりません。このままではうちがあかない、と思った王女は、ついにソーサリアンを呼ぶことにしたのです。犬捜しのために……。

主なモンスター

SORCERIAN

主なアイテム



▶ 黒頭巾のバンブー

巨大洞窟の主、ゲルフスの一番の手下。ゲルフスに授けられた、人間を石化させる魔法弾を撒きちらして、背後に隠した宝箱に人を寄せつけないようにしている。

▶ さかな

表面を氷に覆われた地底湖に住む巨大な魚。人が氷の上を歩く足音を聞くと、狂ったように飛び上がり、厚い氷を突き破って人間に襲いかかってくる！

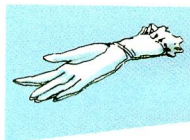


▶ 大コウモリ

翼長2メートルもあるコウモリ。人間の気配をいち早く察知し、人間が反撃できない、ロープを上っている途中などを狙って血を吸いに集まってくるようだ。

▶ 王女の手袋

ジョセフィーヌの胸い主、マーベラ王女の手袋。ジョセフィーヌは王女にとってもよくなつているので、彼女の匂いがすれば、一目散に駆け寄ってくるという。



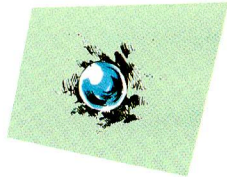
▶ いにしえの金貨

古い時代の金貨で、かなりの値打ち物だという。なかには、この金貨とならば、どんな物でも交換するという者までいるらしい。



▶ ドラゴンの水晶

ラッキードラゴンの涙がこの水晶になった、という伝説を持つ。そのため、悪しき者に対して、ある力が働くというが……。



▶ 魔道士ゲルフス

ケメケメ王国ができるはるか以前よりこの地下洞窟に住んでいるという。青黒いからだに備えた魔法は、洞窟への侵入者に、絶対の“死”を与えるという……。



▶ 毒虫

砂漠の砂に潜って獲物を待ち、足音が近づくと突然飛び出して噛みついてくる。その時に逃げた獲物には毒の弾を吐いて動きを止めようとする、厄介な相手だ。



魔性の島

その昔、ペンタウァのはずれに浮かぶ小さな島は、海賊の隠れ家だった。この島のまわりは潮の流れが速く複雑なため、その流れを知り尽くした、熟練の男でないと接岸できなかったからだ。そのためにここに住む海賊たちは、ペンタウァ全域の海を荒しまわり、王の兵士たちに追われると、この島へと逃げ込み、追撃隊を煙にまいていたのだ。

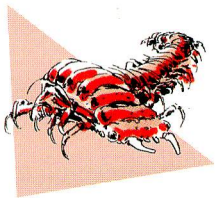
が、それも今は昔。時の国王が遣わした勇者たちは荒波を乗り越え、海賊の一味を捕え、王の前で忠誠を誓わせている。海賊という輩は、もういないのだ。にもかかわらず、最近この島の近辺で、原因不明の遭難事故が相次いで起こっているという。さらに不思議なことには、これまで1人の生存者も、一片の船の破片も付近の浜辺で見つかっていないことだ。

「これはただごとではない……」。そう考えた王は、原因の究明をソーサリアンたちに命じた。かつての王がそうしたように……。

主なモンスター



主なアイテム



▶ センティピード

暗く湿ったダンジョンに生棲する巨大なムカデは、侵入者と見るや、からだを丸めて突進してくる。その姿に恐ろされず、冷静に間接の部分で刺して斬り裂くのだ。

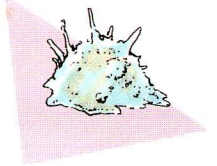
▶ ジーアマダ

巨大なシャクトリムシ。だが、馬鹿にしてはいけない。からだ中に生えたトゲは、レベルの低いソーサリアンなどは、一撃で死に至らしめることもできるのだから。



▶ ウォータースライム

水中に棲息するスライムの一種で、そのからだは水中にいる限り、およそ見わけがつかない。そして、通りがかった者に、強力な酸の水を吐きかけてエサにしている。



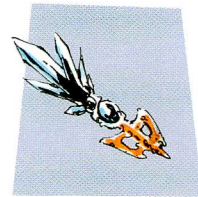
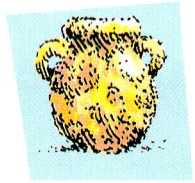
▶ メクラワニ

真っ暗なダンジョンで生活しているうちに目は退化し、逆に聴覚が発達した。それだけに近くを通っても、ソツと、音を立てずに歩けば、攻撃してこないようだ。



▶ 黄金の壺

消息を絶った船の乗組員が持っていた壺。島のどこかにあるらしいが、果たして何の役に立つと言うのだろうか？



▶ 水晶の鍵

美しく輝く水晶から作られた神秘的な鍵。これまで誰も開けた者がいないという、鐘乳洞にある扉の鍵を開けることかできる。

▶ 海賊のアイパッチ

古来より、戦いによって目を傷つけた海賊がその傷を隠すため、不気味さを醸し出すために愛用していた。それだけに、当の海賊にとっては重要なものなのだろう。

